

注意欠陥多動性障害と自閉症スペクトラム障害を診断された中学3年生の生徒への合理的配慮の提供の取組

1. 事例の概要

A生徒は、小学校では、先天性の心疾患のため、病弱・身体虚弱学級に在籍していた。中学に入学してからは、集団で行動できないこと、身辺が清潔に保てないこと、不器用なためうまくできない様子が多くみられた。そのため、スクールカウンセラーが知能検査を実施し、更に児童精神科専門医の診断を受けたところ、A生徒は注意欠陥多動性障害及び自閉症スペクトラム障害と診断された。

A生徒に対して教科ごとに配慮を行うとともに、各教科で出された課題の内容や課題の提出期限を保護者にも知らせたり、各教科担任がこまめに指示したりするようにし、A生徒が課題を期限内に提出できるように配慮した。さらに、欠席が多いA生徒のために、各教科担任が欠席した日のノートのコピーを渡す等の配慮を行った。これにより、A生徒の成績が大きく伸び、結果として、第一志望の高等学校に合格した。このことは、A生徒にとって大きな自信になった。

キーワード 心疾患、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害、通常の学級、合理的配慮

2. 生徒の実態

A生徒は、B中学校の中学3年生で、通常の学級に在籍している。幼少時に先天性大血管転位症の手術を受け、入退院を繰り返してきた。また、小学校では発達障害を疑われたことはなかったが、心疾患のため、病弱・身体虚弱特別支援学級に在籍していた。

中学校に入学当初は、通常の学級に在籍していたが、集団行動になじめず、席の周囲は様々な物が散乱した状態であった。また、制服の裾をなめたりするため制服は汚れていることがよくあった。集団で行動できないこと、身辺が清潔に保てないこと、不器用なためうまくできないことが多かった。そのため、スクールカウンセラーが知能検査を実施し、さらに児童精神科専門医の診断を受けたところ、A生徒は、注意欠陥多動性障害及び自閉症スペクトラム障害と診断された。

3. 本事例に関する基礎的環境整備

○ 校内にはソーシャルスキル委員会が設置され、生徒への個別支援を行っている。

【基礎2】

○ 個別の教育支援計画は、合理的配慮協力員、特別支援教育コーディネーター、在籍する学年の教員で協議したものを担任がまとめて作成し、担任が学年以外の教科担任にも伝達している。【基礎3】

○ B中学校では、発達障害の診断等のある生徒について、特別支援教育コーディネーター、合理的配慮協力員から必要な支援のアドバイスを受けることができる。合理的配慮協力員はA生徒の学習・生活の様子を担当及び各教科の教員からこまめに

聞き取りをし、必要な合理的配慮について提案したり研修の場を設けたりしている。

また、スクールカウンセラーが配置されており、生徒と面談を行うと共に、保護者とも定期的に面談を行っている。更に特別支援員が配置され、生徒への個別支援を行っている。【基礎6】

4. 合意形成のプロセス

保護者は、B中学校入学時からA生徒の身体の状態について、詳細に管理職や担任、養護教諭に伝え、それに対して学校として可能な支援について協議し、保護者に伝えることを丁寧に行ってきた。こうした積み重ねの中で、保護者との信頼関係を構築してきた。例えば、保護者からは、A生徒が課題を期限まで遂行できず、課題点が獲得できないことの危惧が出された。そして、課題の内容や期限を保護者も知らせてほしいこと、通院等でA生徒が欠席した授業のノートのコピーを本人に渡してほしいこと、課題の提出ができていないときは本人に確認してほしいといった支援の申出があった。この申出を受け、学年会議で協議し、A生徒の発達上の特性を理解したうえで、支援を行うこととした。

5. 合理的配慮の実際

- 得意教科である数学科では、多少難しい課題を課した。また、歴史も得意教科であったため、単なる暗記にならないよう、考えさせる「問い」を提示するようにした。英語科では集中が切れやすくなるので、声をかけないようにした。このように教科ごとに配慮した。【合理①-1-1】
- 各教科で出された課題の内容と課題の提出期限を保護者にも知らせたり、各教科担任がA生徒にこまめに指示したりするようにし、A生徒が課題を期限内に提出できるように配慮した。【合理①-1-1】
- 欠席が多いA生徒のために、各教科担任が欠席した日のノートのコピーを渡した。【合理①-2-1】
- A生徒の心理的安定を図るためにスクールカウンセラーによるカウンセリングを実施した。【合理①-2-3】
- 合理的配慮協力員は、A生徒の学習、生活の様子を担任及び各教科の教員からこまめに聞き取りを行い、必要な合理的配慮について提案した。【合理②-1】

6. 本事例の成果と課題

A生徒の障害特性に応じた合理的配慮等の支援を行った結果、A生徒自身がクラスメイトに声をかけて文化祭の学級劇に取り組んだり、放課後に一緒に遊んだりする姿が見られるようになった。また、成績が大きく伸び、結果として、第一志望の高等学校に合格した。第一志望の高等学校への入学は、A生徒にとって大きな自信になった。